



2019年5月15日

各 位

上場会社名 株式会社ビーアールホールディングス
代 表 者 代表取締役社長 藤田 公康
(コード番号 1726)
問合せ責任者 取締役管理本部副本部長 天津 武史
(TEL 082-261-2860)

個別決算における特別損失の計上及び 個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

2019年3月期(2018年4月1日～2019年3月31日)の個別業績(日本基準)につきまして、連結子会社に係る特別損失を計上するとともに、個別業績につきまして前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。なお、当該特別損失は、連結決算においては消去されるため、連結損益への影響はありません。

記

1. 個別決算における特別損失の内容

当社が保有する関係会社株式のうち、実質価額が著しく下落した連結子会社(キョクトウ高宮株式会社)に対する関係会社株式について減損処理を実施し、関係会社株式評価損30百万円を特別損失に計上いたしました。

また、当該連結子会社の債務超過を解消するため実施した同社に対する債権の株式化500百万円の実行において、実質的な債務免除額217百万円の貸倒処理を実施いたしました。当該貸倒処理は関係会社支援損として特別損失に計上しております。

当該関係会社株式評価損及び関係会社支援損は、連結決算においては消去されるため、連結損益への影響はありません

なお、キョクトウ高宮株式会社の今後の業績に重要な影響を与える要因として、次年度以降NEXCO各社の高速道路大規模更新・修繕事業におけるPC床版取替え工事の発注量の増加を見込んでおります。

2. 2019年3月期個別業績（通期）と前期実績との差異

（金額の単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益又は 当期純損失（△）	1株当たり 当期純利益又は 当期純損失（△）
前期実績（A）	百万円 596	百万円 86	百万円 84	百万円 106	円 銭 2.73
当期実績（B）	676	129	119	△87	△2.24
増減額（B－A）	80	42	35	△194	—
増減率（％）	13.4	49.3	42.5	—	—

（差異が生じた理由）

関係会社受取配当金が80百万円増加したことにより、営業収益、営業利益、経常利益が前期実績を上回りました。

一方、当期純損失については、前述の関係会社株式評価損30百万円及び関係会社支援損217百万円を特別損失に計上したことによるものです。

以 上